

★総合評価における「評定」の基準

A:十分達成できた、B:概ね達成できた、C:達成できなかった

めざす児童像等	評価項目	評価指標	活動計画	自己評価			評価		学校関係者の意見	次年度への課題と改善策
				肯定的なアンケート結果			総合評価			
				児童	保護者	教職員	総合評価			
自ら考え学ぶ子ども(知)	わかる授業の実践	児童アンケートの肯定的な回答80%以上	・TTを活用し、個に応じた指導を行う。 ・1人1台端末を効果的に活用し、個に応じた指導を行う。 ・ユニバーサルデザインの考え方を授業に取り入れる。(焦点化・視覚化・共有化)	93.5%	97.6%	100.0%	B	〇1人1台端末の導入に向けて教職員のICTスキルの向上がより一層望まれる。また、ICTばかりに目を向けるのではなく、本来の目的がぶれないよう生きる力の育成に努めてもらいたい。 〇読書習慣の項目は毎年数値が低い。家庭での読書を習慣づけるという課題に対しては、保護者の協力が不可欠である。学校からの働きかけは今後も継続してもらいたい。	〇読書習慣の育成のための様々な取組を学級通信や校内掲示等で情報を提供し、家庭への啓発を継続する。また、校内だけでなく家庭での読書活動の機会を増やすための取組を計画的に実施する。 〇「家庭学習の手引き」を活用し、学習習慣の意識付けを行うとともに、一人1台端末を用い、個に応じた指導を行うことにより基礎学力のさらなる定着を図る。 〇本年度に引き続き、言語力育成のために、NIEの活動に取り組み。 〇新しい生活様式に合わせたコミュニケーションツールとして、アプリ等を活用し、自己表現や他者へ発信できる場を確保する。	
	言語力の育成	児童アンケートの肯定的な回答80%以上	・ホワイトボードを効果的に活用する。 ・作文読本や作文帳を活用する。 ・新聞読書感想文、作文読本へ出品する等して、目的や意図に応じて楽しく取り組むことができる工夫をする。 ・朝夕の会で課題を決めたスピーチに取り組むことにより、言語力の向上を図る。(おすすめの本・ニュースから・行事等) ・教育過程の中にNIEを位置付けて取り組む。	82.3%	87.0%	100.0%				
	基礎学力の定着(学習習慣)	児童アンケートの肯定的な回答90%以上	・基礎基本の確認テストを実施する。(ミニテスト等) ・1人1台端末を用い、個に応じた指導を行う。 ・ドリル学習を継続する。 ・補充学習を実施する。 ・学び方の手順を作成し、学習習慣の意識付けに向けて学校全体で取り組んでいく。 ・保護者啓発を図る。	90.3%	91.9%	100.0%				
	読書習慣の育成	1日15分以上本を読む児童(80%以上)	・宿題にする等、音読の習慣化を図る。 ・子ども新聞を効果的に活用する。 ・月1回程度は図書室での読書の時間を取るようにする。 ・本を図書室で借りる時間をしっかり確保し、週末の宿題にする等、本を持ち帰る習慣を身に付けさせる。 ・校内での読書活動の取組の視覚化を行い、情報公開をすることで啓発を図る。	77.4%	60.2%	94.1%				
	地域学習や体験学習の充実	各学年で年間3回以上実施	・地域人材を活用する。 ・地域へ出かけ、ひと・もの・ことに触れる機会を増やす。 ・校外活動や出前授業を効果的に実施する。	96.8%	94.3%	100.0%				
心豊かで助け合える子ども(徳)	あいさつの励行	児童・保護者・教職員アンケートの肯定的な回答の平均90%以上	・各学期のはじめに、あいさつの意義やその効果についての指導を徹底する。 ・朝の会や帰りの会で、元気なあいさつを意識付ける。 ・柿原9ヶ条「元気な声であいさつ」を徹底する。	90.3%	82.1%	100.0%	B	〇保護者や教職員は、大人が言葉づかいやあいさつなどの言語環境の充実に気を付ける必要がある。家庭への啓発や協力依頼を継続して行ってほしい。 〇子どものあいさつの声が小さくなっている。引き続き学校・家庭が連携して指導を行ってほしい。	〇あいさつの声小さく自分から進んでできる児童が少なく感じられることが課題である。次年度は、常に日常生活の中で気持ちのよいあいさつや適切な言葉づかいができるように重点目標を掲げ、全校的な取組を実施していく。 〇家庭との連携をより一層深め、各種通信を活用した啓発を行い、家庭でもあいさつや丁寧な言葉づかいができるように呼びかけていきたい。 〇児童の好ましい言葉づかいはその場で褒め、好ましくない言葉づかいはその場で指導するといった即時対応を徹底し、児童の言葉づかいに対する意識の向上を図る。 〇年間を通じて学校行事等の様々な活動の中で、あいさつをする場面がある。事前に具体的な目標を児童に掲げ、場に応じたあいさつができることを目指す。	
	言葉づかい	児童・保護者・教職員アンケートの肯定的な回答の平均90%以上	・学校での教育活動全般において、その都度場に応じた言葉づかいについて指導を徹底する。 ・学年に応じた日常の言葉づかいや敬語の使い方を指導する。	87.9%	79.3%	100.0%				
	規範意識	児童・保護者・教職員アンケートの肯定的な回答の平均90%以上	・柿原9ヶ条の見直しと徹底した広報活動を行う。 ・柿原9ヶ条を各委員会に割り振り、各委員会でその達成に向けて特色を活かし積極的に活動する。 ・学級話し合い活動について、声の大きさや話形のモデルを掲示し、校内で共通理解を図り、徹底する。 ・生徒指導上身に付けさせたいことを職員が共通理解し、足並みをそろえて指導を徹底する。特に指導上必要がある場合には、ホームページ等を活用し、保護者にも呼びかける。	93.5%	91.9%	100.0%				
	自尊感情の育成	児童アンケートの肯定的な回答90%以上	・朝の健康観察を担任が必ず行い、一人一人の名前をきちんと呼ぶ。また、担任が児童一人一人を見守り、大切にされていると感じられるような一言をかける機会を多くもつ。 ・掲示場所や内容を見直し、自分の頑張りを発表できるような校内掲示をする。	96.8%		100.0%				
	仲間づくり	児童・保護者・教職員アンケートの肯定的な回答の平均90%以上	・ソーシャルスキルトレーニングやオープンクエスチョン、構成的エンカウンター等を活用し、信頼ベースの学級づくりを実施する。 ・「今日のキラキラさん」や「ほめ言葉のシャワー」等の時間を帰りの会等に取り入れる。 ・学校の課題に対する取組を進め、仲間づくりや人権意識の高揚をはかる手立てや方策についての研修を深める。 ・学級での係活動の活性化を図り、児童一人一人の活躍できる場を設定する。	96.0%	99.2%	100.0%				
集会、行事等の充実	・各学期1回以上、全校集会(ロング)の実施 ・朝会やショート集会等で各学年、委員会、クラブが1回以上発表	・ユカリ班を基盤にした集会や行事を行う。 ・月に1回「キラキラタイム」を設け、全校児童で敷地内の美化活動を行う。 ・人権に関する集会を加え、事例を元に各ユカリ班で話し合いをし、全校の前で発表する機会をつくった。	99.2%	100.0%	100.0%					

めざす児童像等	自己評価				学校関係者評価			次年度への課題と改善策	
	評価項目	評価指標	活動計画	評価			学校関係者の意見		
				肯定的なアンケート結果 児童	保護者	教職員			総合評価 所見
ねばり強く やり抜く子 ども(体)	交通安全指導	児童アンケートの肯定的な回答100%	・全学年での交通安全指導行事を実施する。 ・交通安全について学習した結果を保護者に周知する。	98.4%	99.2%	100.0%	B	○外遊びについてはコロナ禍の影響で数値が低くなったのではないかと減少傾向が続くようなら何らかの方策が必要である。 ○全校で体力づくりの一つとしてマラソンや縄跳びで検定を取り入れていることは良いことである。 ○徒歩通学の奨励・啓発を今後も引き続き行ってほしい。	○交通安全は、指標に近づけるように指導方法をもう一度見直し、継続して保護者への啓発に努める。 ○スマイルチェックは今後も継続して行う。 ○家庭でのゲーム機やスマホの使い方についての指導を行う。また、ノーゲームデーなどの取り組みを行い少しでも外で遊べるように取り組む。 ○途中まで付き添っていている保護者もいるが、さらに集団登校の意義とリーダーとしての役割について再度指導することで、より安全な登下校につながるようにする。 ○徒歩通学の奨励について保護者や児童にさらに啓発していく。 ○食事や栄養、バランス等、食に関する指導を継続して行う。
	早寝・早起き	保護者アンケートの肯定的な回答80%以上	・スマイルチェック(睡眠・朝ご飯・読書・宿題)を配付し、睡眠の大切さについて指導する機会を持つ。	75.8%	75.6%	100.0%			
	朝食の摂取	保護者アンケートの肯定的な回答90%以上	・各学級で学年の発達段階に応じた指導を行う。 ・給食試食会に栄養士を招き保護者への啓発を行う。	97.6%	94.3%	100.0%			
	外遊びの励行(体力向上)	保護者アンケートの肯定的な回答80%以上	・高学年主体の自主的なユース活動を実施する。 ・年間を通して縄跳び検定を実施する。	86.3%	71.3%	100.0%			
	徒歩通学(体力向上)	児童アンケートの肯定的な回答90%以上	・通学路の安全点検を実施するとともに、保護者への啓発を行う。 ・交通立哨を実施する。	85.5%	82.1%	88.2%			
信頼される 学校づくり	楽しい学校生活	児童アンケートの肯定的な回答95%以上	学校評価や生活アンケート、行事終了後の各種アンケートを活用し、各教育活動の改善・充実を一層図る。 ・中間期の見直し	93.5%	98.4%	100.0%	B	○保護者からの回答では、全体的に肯定的な意見が多いが、信頼される学校づくりについては今後も工夫改善を加えながら取り組んで欲しい。 ○コロナ感染症対策は十分できていた。今後も早めに先を見通した対応が必要になる。	○学校の新しい生活様式を徹底した教育活動に努め、基本的にはこれまでの実践を継続させる。学校行事については、状況をしっかり見極め、見直し・改善に取り組むとともに、新しいことにも試み、「学びを止めない」という課題解決につなげていきたいと考えている。 ○今年度発足した、児童の委員会「いじめ防止子ども委員会」の活動を更に活性化し、主体的にいじめ防止に取り組むことができるようにする。
	保護者・地域からの信頼	保護者アンケートの肯定的な回答90%以上	・学級懇談や個人懇談を活用し、保護者との意見及び情報交換を行う。 ・学校評価や学校評議員会からの意見を反映し、教育活動や児童への指導を改善する。 ・中間期の見直し	98.4%	100.0%	100.0%			
	いじめ防止の取組	児童・保護者・教職員アンケートの肯定的な回答の平均90%	・人権教育の実践より得られた成果や課題をもとにして、より具体的な取組を進めることで、仲間づくりや人権意識の高揚を図る。 ・業間や昼休みに児童と積極的にふれあい、いじめの未然防止に努める。 ・いじめ防止対策委員会を充実し、児童の実態や対策等について共通理解を図る。 ・年3回のアンケート調査後の迅速な聞き取りと管理職への報告を徹底する。 ・いじめ防止の取組等を保護者に積極的に広報する。 ・中間期の見直し	91.9%	93.4%	100.0%			
	相談体制の確立 ・特別支援教育の充実	児童・保護者・教職員アンケートの肯定的な回答90%以上	・相談しやすい雰囲気づくりに努めるとともに、相談窓口を周知する。 ・スクールカウンセラーや関係機関との連携を密にし、必要に応じてケース会議を行う。 ・中間期の見直し	93.5%	93.4%	100.0%			
	危機管理体制の整備	保護者・教職員アンケートの肯定的な回答90%以上	・様々な危機に対応したより実践的な避難訓練や引き渡し訓練、防犯教室を実施する。 ・新組織や避難訓練等から明らかになった課題に基づき、防災管理マニュアルの見直しを行う。 ・関係機関とのより一層の連携を図る。 ・中間期の見直し	96.8%	98.4%	100.0%			